

平成16年 11月 12日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

SELDAA 創立20周年記念の懇親会について

お世話になった先生や英語学科の先生をお招きして、下記のごとく懇親会を開催します。
皆様奮ってご参加下さい。

日時：2004年12月4日(土) 14:30～16:30

場所：上智大学第6会議室（5階）

会費・2,000円（当日お支払いいただきます）

参加希望の方は同封の葉書にて、または、info@seldaa.net宛に11月30日までお申し込み下さい。

SELDAA ホームページについて

5月にリニューアルされたホームページ(<http://seldaa.net>)のアクセス数が、10月のはじめ現在で約4,700件に達しました。「英語学科だより」や毎日更新される丹野先生による「学校長メモ」などで母校の最新情報が得られます。さらに、この会報誌を含め、20年分の会報誌のすべてのページを閲覧することもできます。会員交流に、そして、情報収集の場として是非ご利用下さい。なお、以前使用していた古いアドレスは閉鎖しました。

SELDAA 常任委員大募集中

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に同窓会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にinfo@seldaa.netまでどうぞ。

エヴァレット先生 帰天

英語学科で長い間教鞭を執ってこられました
ウィリアム・エヴァレット（小山信夫）名誉教授が、
10月13日に逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします



日本の英語教育に期待する

英語学科教授 吉田 研作 (昭和47年)

私は、ここ数年、文部科学省の英語教育改革に関わってきました。小学校から大学まで、色々な委員会のメンバーとして、現代日本の英語教育がどうなっているのか、また、どこへ行こうとしているのかについて考えさせられてきました。

皆さんの目からは日本の英語教育はよくなっているように見えるでしょうか。一般にはまだまだ目に見える成果はでていないと思います。しかし、中に入って、研究指定校、Super English Language High School, 「英語が使える日本人」育成プログラム、などを見ていると、何かが確実に変わってきているのを感じます。まだまだ試行錯誤の段階ですが、過去には見られなかったような新しい試みがされ始めています。

高校生のディベート大会を鹿児島で見ましたが、決勝戦は、なかなか見事なものでした。中高生のスピーチコンテストの審査をしていると、英語は上手になってきていることに気づきます。スピーチの後に、簡単な質問をすることが良くありますが、ちゃんと対応できるようになってきています。数年前までは考えられなかったことだと思います。

先日、大阪のある市の教育フォーラムに参加しましたが、壇上で、小学生が見事な英語の発表をしていました。単に歌とか、単純なゲームで終わることなく、ちゃんと英語でコミュニケーションしていました。こういう学校は他のところでもかなりできています。

勿論、全てがバラ色というわけではありません。中でも教員の質の問題が一番大きいでしょう。昨年行った日・韓・中三国の高校生および英語教師の国際比較調査の教員研修への参加率を見ると、中国の教師89%、韓国の教師80%に対して、日本の教師は、40%台に止まっていることが分かりました。遅ればせながら、昨年度から日本でも公立学校の英語教師6万人全ての資質向上研修が始まりましたが、果たしてどれだけの効果を挙げることができるか、見守って行きたいと思います。

卒業生短信

9月上旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。

(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

■7月より、夫（S.61年経済学科卒）と2人の子供と共にFINLANDのHelsinkiに駐在することになりました。Finland語が5年の間にマスターできるかどうかわかりませんが、トライしてみようと思います。

北欧にお越しの際は是非お立ち寄りください。

白石（皆川）千裕（昭和62年卒）

■前略。今回のニュースレターでかつての「女性セミナー」が20年の歴史に幕を閉じたのを知り、改めて、鈴木禮子さんはじめ、お世話して下さった皆様に一言、お礼を申し上げたいと思筆をとりました。

私自身は、ニッセル先生が手作りでテープをダビングして下さった頃の、主にリスニングが中心だった最初の10年間、よく女性セミナーに参加させて頂きました。その後、諸々の事情でだんだんと足が遠のいていってしまったのですが、いつも多方面から講師の方々を捜して会を運営して下さった役員の方々、本当にご苦労さまでした。上智らしい、あたたかくアットホームな感じがする会でした。今、通訳ボランティアとして活動できるのも、あの頃通った女性セミナーのお陰かもしれません。

本当に役員の方々、ありがとうございました。

栢木 桂子（昭和44年卒）

■第12回「小川未明文学賞」大賞受賞作が学習研究社から出版されました。

『歩き出す夏』今井恭子作（小学校中学年から）大人も楽しめる作品です。お子様、お孫さんと一緒にどうぞ。尚、「ミツバチの童話絵本コンクール」最優秀童話賞受賞作、『ミツバチ・ともだち』もポプラ社より発売中です。

隅田（今井）恭子（昭和47年卒）

■今年3月をもって早期退職し、只今趣味に没頭中。先日（5月12日）、待望の男子初孫が誕生。今年は変化の多い一年になりそうです。

村上 彰彦（昭和44年卒）

■卒業後34年間、紙パルプ産業という地味な業界一筋で活躍しております。この業界も最近の5年間というものは、実に大きな変動期間でした。これからの10年間は更に変化すると思われまます。

小生は同産業の原料関係を取り扱っている海外サプライヤーの対日代表機関を運営しておりますが、昨今の中国市場の急激な発展（変化）並びに影響には驚かされております。

三好 謙（昭和45年卒）

■H14年英語学科卒業後2年間、欧米一流企業人を相手に日本語講師として働き、H16年2月よりシドニー工科大学日本語教育グラデュエート・ディプロマコースに一年間留学中です。現在、同級生の森 文香（あやか）さんのホームページに「シドニーの空の下」を投稿送付しております。興味のある方、どうぞご覧下さい。

http://www.geocities.com/world_undersky

永田 澄子（平成14年卒）

■9年半過ごしたNew Yorkを転勤により去ることになりました。子供2人はほとんど米国暮らししか知らず、帰国後の学校のこと等、普段日本の駐在員の他のご家族帰国を散々横目で見してきたのとは違って、何とも悩みごとの多いことか。折も折、外はこの冬初の大雪で、みるみるうちの銀世界。外をみながら、つい、生活っていろいろなことの積み重ねで出来ているものだ実感する次第。

当地では、NYソフィア会というのがあって、様々なソフィアンの方々と交流できたことは、大変に貴重な思い出となりました。

ウォールストリートの金融街での9年半は、たいへんエキサイティングで時も忘れてしまった観もありますが、メキシコ危機やアジア-ロシア危機、「9.11」のテロ事件など、忘れられないこともいろいろありました。そんなことよりも、日本のことはほとんど忘れてしまった自分が心配です。そんなときはソフィア会のことを思い出していこうと思います。四谷を訪ねるのが楽しみです。

舟山 浩一（昭和62年卒）

『夫婦でおっかけ----能に夢中』

牧内 操 (昭和46年卒)



ある休日の午後、テレビのリモコンをガチャガチャ動かしていた時、画面に能役者の姿が映し出された。いつもならず他局に切り替えるところなのに、ふと手が止まった。静かなたたずまい、能面を通してよく響く声。思わず隣でうたた寝していた亭主をたたき起こし、ふたりで引き込まれるように見てしまった。

見終わった後、新聞で調べたところ、演目は「鶴(ぬえ)」。シテ方の名は友枝昭世。この人が晩年の白州正子が絶賛した喜多流の能楽師友枝喜久夫の長男で、現代を代表する演者の一人であることもその時は知らなかった。以来十年、われら夫婦は能の世界にのめり込んでいく。

大学で夫は西洋史、妻は英語を専攻したはずの夫婦の書棚には次第に「日本古典文学全集(謡曲集)」、「風姿花伝」、「老木の花」、「能のドラマツルギー」などの本が増えていく。といっても全く門外漢だから、最初はどこで、どんな会話があるかさえ見当がつかなかった。歌舞伎・文楽の公演にはこまめに通っていたものの、能はとっつきにくく、能楽堂なる場所にも足を踏み入れたことはな

かったからだ。そこで流派にこだわらず自主公演を開催している国立能楽堂に出かけてはせせとチラシで情報収集。やっと「友枝昭世の会」というチラシをみつけた。

能を見るようになって何が大変かといってチケットを手に入れる難しさといったらない。伝統的に一期一会を重んじる能の公演は原則として一回限り。人気者が出演するとチケットを獲得するのに一苦労だ。電話をかけ続けて半日つぶれた拳句、売り切れの憂き目に会うことも一度ではない。そしてわれらの友枝昭世は知る人ぞ知る“売れっ子”なのだ。

近年大活躍の狂言師野村萬斎クンほどではないが、われらのような“追っかけ”もいればグズだっている。その芸に魅せられたイラストレーターが描いた絵はかき集はただ今第三集を発売中。恒例の巖島神社での観月能には東京から馳せ参じるファンのために航空券・宿泊代込みのバックが登場するくらいだ。毎年、年末になると次の年の演能予定表が送られてくる。来年はどんなすばらしい能との出会いが待っているだろうか。

『安全屋、見習い中』

齊藤 信弘 (平成4年卒)



私が住んでいる岩手ですが、昨今の不況で首都圏等からの進出企業の撤退が相次いでいます。失業率も全国平均を上回り、高校生の就職内定率は50%を切る現状です。

そんな中、文化系大学というとなかなか仕事を見つけるのに苦労する状況ではありますが、上智・英語学科卒のReputationのお陰か、今のところ何とか食べるに困らないだけの仕事にはありつけています。

現在、外資系化学製品メーカーで、労働安全衛生と環境エンジニアをしております。災害ゼロ達成のための社員教育と、製造設備の安全策、環境マネジメントの改善推進が主な業務です。

US本社のEHS(Environment,Health,and safety)のCorporate Policy, Standardを岩手の工場に周知、定着させること、現状のステータスを本社へ報告することが定常業務となっており、ここで大量の英文を読み書きすることになります。また私自身が受けるトレーニングもIntranetを使って英語で実施されます。

今年10月には、中国・上海で環太平洋の各工場のEHS担当者が一同に会し、“Ergonomist”（人間工学の観点からの職場改善する社内専門家）認定トレーニングがあります。

小さな工場ですと、一人でいくつもの専門家にならなければなりませんから、体がいくつあっても足りません。この仕事を始めたのは昨年8月に転職してからで、それまでは半導体製造装置メーカーで10年ほどテクニカルライターをしておりました。開発者や組み立て担当者とのディスカッションしながら、製品仕様の確認やリスクアセスメントを一緒に実施していましたから、かつては製造物責任、現在は労働安全衛生と、視点は違いますが、新旧の仕事は多少共通点があるかも知れません。

オフタイムは家族の冷たい視線を浴びながら、旧いクルマの修理が楽しみのひとつです。写真は、1964年式のBMWイセッタというクルマで、ドアは車体全部にしかなく、前輪2つ、後輪1つの三輪車です。エンジンと電送系の不良で2年間苦み？ましたが、先日やっと車検が取れました。

この車で家で近所を子供とのんびり走るのが、最高のひとときです。

大使公演会 レポート

SELDA セミナー

● 2004年7月5日(月)

駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使
ウラディミール・ラスプディチ氏

「ボスニア・ヘルツェゴビナの概略・日本との関係等」

英語学科と同窓会共同主催の大使講演の3回目が、上智大学の図書館で開かれた。今回は、ボスニア・ヘルツェゴビナのウラディミール・ラスプディチ大使が講演をしてくださった。ボスニア・ヘルツェゴビナの歴史を語るのに、

1時間では短すぎる。現在のボスニア・ヘルツェゴビナは、今なお、経済的な問題に深刻に悩んでいる。日本は多大なる経済援助を行っている。多民族国家であるボスニア・ヘルツェゴビナの将来は数々の問題を抱えている。アフガニスタンやイラク問題で、ともすればバルカン半島を忘れがちな昨今、歴史に翻弄されたボスニア・ヘルツェゴビナについて学ぶよい機会を与えていただいた。講演のあと、法学部の学生さんと一緒にアイリッシュパブでビールを飲みながら、今日の講演についていろいろと話をした。世界のいろんなところを歩いてみたいと彼らは言う。ボスニアに実際に行って1ヶ月を過ごしたという山田いずみさんは、大使にも積極的に質問していた。この講演会、今後存続するかどうかは、学科判断ということだが、彼らは、「これからもこのような講演会をずっと続けてほしい」と要望した。積極的に世界を学ぼうとする彼らの意欲と熱意に何とか応えたいものだ。

片野順子さん (1977年卒)

● 2004年6月3日(木)

駐日バングラデシュ大使 モハメッド・セラジュール・イスラム氏
「バングラデシュと日本の関係について等」

今日はバングラデシュ大使による講演会が行なわれました。大使夫人と娘さんご夫妻も同行されました。学長との会見のあと、講演は図書館L812で行なわれました。

英語学科：東郷先生

● 2004年5月17日(月)

駐日アイスランド大使 インギムンドル・シグフースソン氏
「アイスランドの概要、エネルギー問題について等」

駐日アイスランド大使をお招きしてのSELDAセミナーは、快い雰囲気の中、有意義に終わりました。暖かなお人柄に加えて、巧みに自国を紹介される術は、さすが一流の外交官です。講話の前に、学長とも懇談されました。大変喜んでいらしたようで、カーリー先生も素晴らしい親善大使ぶりを発揮されました。

ところで私は、昨日からHis Excellency Mr. Ingimundur Sigfussonを念仏の様に何度も繰返していましたが、いざお会いして挨拶する段になると、全く口からお名前が出ず、又してもドジの学科長を演じてしまいました。

英語学科長：丹野先生

大使講演会 (SELDA セミナー) について

前期に予定していた、駐日アイスランド大使、駐日バングラディッシュ大使、および、駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使による3回の講演会が終了しました。この大使講演会は、片野順子氏 (昭和52年卒) を委員長とする、活性化委員会 (7月に解散) により提案され、同窓会と英語学科の共済により実現したものです。しかし、残念ながら、学科の協力が得られなくなりそのまま継続することができなくなりました。各国の駐日大使を招いて定期的に講演会を開催するのはユニークな企画であり、継続を望む強い声も寄せられています。同窓会としても、我々の卒業生にこのような講演会をアレンジできる同窓生がいることを誇りに思っております。ただ、同窓会単独の開催は難しく、大学やソフィア会に相談しながら今後のことを検討したいと思います。

石川雅弥 (昭和40年卒)

リニューアルされたSELDAAホームページ (<http://seldaa.net/>)には、「英語学科長メモ」として毎日、丹野先生の寸感が掲載されています。ここにその抜粋を転載させていただきます。

英語学科長メモ

◆2004年4月16日(金) 「業務報告」

少し早めにオフィスに到着。早速学部長室、学科事務室、先生方の研究室を往復。午後は、パンをかじり野菜ジュースを飲みながら、学科事務室で仕事。不図時計を見ると3時15分！あわてて教室に駆け込み「英文講読」の授業。可愛いらしい英語科2年生と過ごした後、直ちに9号館から紀尾井ビルへ。次は、3、4年生の「米文学史」の授業。すっかり大人になった新3、4年生の顔。何か我が子の成長をつぶさに見ているような錯覚に。例によって帰路最寄り駅で500mlカロリー70%オフの発泡酒を飲んで無事帰宅。

◆2004年4月27日(火) 「手作りの授業」

昨日、草深さんと廊下で立ち話が弾んで、フォーブス先生の話になりました。まともに英語の発音も出来ない学生たちを相手に、一生懸命語学を教えたあの精神こそが、英語学科のかけがえのない伝統でしたね、と二人で当時の思い出を語り合いました。現在、わが学科は、もともと十分英語力のある学生を沢山入学させ、そのまま英語学科のブランドを貼って社会に送り出している傾向があるように思います。英語を身につけさせる目的の英語学科が、はじめからすでに英語の出来る学生を合格させる、これは現在わが学科が抱える一種のCatch-22ではないでしょうか？

◆2004年5月22日(土) 「事務室閑談記」

金曜日、堀口さんが不図ため息混じりに言いました。「英語学科の先生たちは本当に忙しくて大変！ゆくり研究する時間などありませんね」よくぞ言ってくれました！これなのです。なかなかノーベル賞をもらえない理由は、でも学生の教育や面倒見と言う点では、他学科、他学部、他大学に引けを取りません。いやそれを凌ぐものと自負しています。

◆2004年5月28日(金) 「お菓子の差し入れ」

5年生の時、野口啓祐先生の講義を受講。風格のある本物の大学教授でした。但し、必ず30分ほど遅く始まり、終わるのが7時過ぎ。ポケットからよれよれの千円札を出して受講生に、「菓子でも買ってきなさい」お菓子を食べながらシモンヌ・ヴェユの講義を受けました。知的満足度満点の授業でした。9、10時限の受講生はお腹をすかしています。今日行きがけに駅前で駄菓子を買って、学生に配りました。喜んでいました。空腹感を満たしたかもしれませんが、知的に満たされたか、それは大きな疑問ですね。

→続きはホームページをご覧ください。

総 会 報 告

2003年度 上智大学英語科同窓会 収支決算書
自 2003年4月1日 至 2004年3月31日

収 入 額 21,828,375円
支 出 額 3,969,629円
次年度繰越金 17,858,746円 (単位：円)

2004年度 上智大学英語科同窓会 予算
自 2004年4月1日 至 2005年3月31日

(単位：円)

	科目	予算	決算	備考
収入	1.繰越金	18,898,135	18,898,135	
	2.会費	2,000,000	2,854,000	
	3.受取利息	400	240	銀行預金、郵便局貯金
	4.活性化事業収入	400,000	76,000	同窓会活性化事業(ニッセル先生を囲む会)
	合計	21,298,535	21,828,375	
支出	1.名簿作成積立金	600,000	600,000	
	2.会報費	3,000,000	2,360,899	編集・印刷料1,483,627(税込) 郵送料 1,091,750 送料 114,048
	3.SELDAAセミナー	400,000	400,000	
	4.交流促進費	200,000	147,640	
	5.総会費	100,000	68,360	資料作成費・懇親会
	6.会議費	150,000	73,020	常任委員会等
	7.事務処理費	300,000	128,008	文書代・通信費・振込手数料・消耗品費、等
	8.20周年記念準備費	500,000	163,356	ニッセル先生を囲む会、活性化委員会運営
	9.予備費	16,048,535	0	
合計	21,298,535	3,969,629		
		17,858,746	2004年度に繰越	

	科目	予算	備考
収入	1.繰越金	17,858,746	2003年度に繰越
	2.会費	2,000,000	入会金を含む
	3.受取利息	400	銀行預金、郵便局貯金
	合計	19,859,146	
支出	1.名簿作成積立金	600,000	2006年度(2007年3月)発行予定
	2.会報費	3,000,000	会報39・39号分
	3.交流促進費	300,000	会員間交流事業費等(web等)
	4.SELDAAセミナー	400,000	大使講演会等
	5.総会費	100,000	資料作成費、懇親会等
	6.会議費	150,000	常任委員会等
	7.事務処理費	500,000	文書代・通信費・振込手数料・消耗品費、等 事務処理用PC購入費
	8.20周年記念パーティー補助費	100,000	同窓会設立20周年記念パーティー補助
	9.予備費	14,709,146	
合計	19,859,146		

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください(英語学科同窓会事務局にお知らせいただいた場合、ソフィア会事務局にも通知しております)。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

また、最近では市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

住所・勤務先の変更等は、同封の葉書をお使いいただくか、SELDAAのホームページの「住所・勤務先変更フォーム」(http://seldaa.net/about/change_form.html)から送ってください。

■SELDAA より、募集とお知らせ

◆SELDAA では、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせはこちらまで。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局

FAX.03-3238-3910 E-mail:info@seldaa.net

(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円
一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)
終身会員 : 一括払い 20,000円

■あなたの会費納入状況

今号に限り、会費が未納の会員の宛名ラベルに押していた「未」のスタンプを省略しました。これは、12月4日に予定している「20周年記念懇親会」に対応するための臨時措置です。次号から復活させますので皆様のご協力をお願いいたします。

6,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。同窓会ではコンピュータによる事務の簡素化に務めています。

SELDAA 常任委員 (2004年11月現在)

- 名誉会長/丹野 眞(英語学科長)
- 会 長/石川 雅 弥(昭和40年卒)
- 副会長・事務局長/池 沢 成 実(昭和48年卒)
- 副 会 長/大日方聖信(昭和62年卒)
- 会 計/東郷公徳(昭和62年卒)
- 会 報/佐藤誠一郎(昭和53年卒)
- 常任委員/飛弾 誠(昭和53年卒)
根本竜太郎(平成15年卒)
- 監 査/井坂由美子(昭和47年卒)
岩 村 玲 子(昭和49年卒)